

2012年 年頭所感

平成 24 年元旦
日本ジェネリック製薬協会
会長 澤井 弘行

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃からジェネリック医薬品の普及に関してご協力ご指導いただき、心より御礼申し上げます。

昨年は、3月に未曾有の東日本大震災が発生し、大変な被害をもたらしました。被災された方々に改めてお見舞い申しあげますとともに、一日も早く震災から復興されますことを心より祈念申し上げます。この震災は、自然の脅威を実感するものでありましたが、また、日ごろの災害への備えの大切さを再認識させられた年でもありました。

当協会会員各社では、震災被害を蒙った会員会社もあり、また、原子力発電所の事故に伴う電力不足から電力需給対策が打ち出されるなど困難な状況に直面しましたが、被害復旧とジェネリック医薬品の安定供給への対応に尽してまいりました。

さて、昨年のジェネリック医薬品の使用状況を振り返りますと、一昨年ほどの伸びは見られず 20 数%程度のところで横ばいの状態で推移し、政府目標である 2012 年度中の数量シェア 30%を達成するためには、さらなる努力が必要な状況となっています。

昨年の中医協における議論におきましては、ジェネリック医薬品の初収載薬価の引き下げや価格帯が非常に多いことへの是正措置などについて問題提起がなされました。私としましても、中医協薬価専門部会において、初収載薬価の 0.7 掛け堅持などジェネリック業界の置かれている立場と要望についてご説明をいたしました。厳しい議論の方向となっております。

一方、同時並行的に、医療保険制度上のジェネリック医薬品の使用促進策について議論が行われております。後発医薬品調剤体制加算の見直し、薬局における後発医薬品に関する情報提供、一般名処方の推進、処方せん様式の変更などの検討が進められており、こうしたことが実行に移されれば、ジェネリック医薬品の普及が一段と進むものと期待しております。

長期収載品がすべてジェネリック医薬品に置き換わった場合、薬剤費の削減額は、財務省の試算では約 1 兆 7 千億円にもなります。世界的な経済・財政危機の中、我が国も少子高齢化や景気の停滞、東日本大震災からの復興という課題があり、財政的に非常に困難な状況にあります。医療費及び患者負担の軽減に資するジェネリック医薬品の使用促進は緊要の課題であり、持続的な皆保険制度の維持への貢献のために、課題を乗り越えジェネリック医薬品の使用促進という使命にしっかり応えていくべき年であろうと思います。

また、中医協におけるジェネリック医薬品の使用促進の議論においては、品質や安定供給に対する懸念についてのご指摘やブランド名の既存ジェネリック医薬品の一般名化についてご要望を受けているところでございます。当協会としましては、ジェネリック医薬品に対する信頼を更に高めていくことを第一に、引き続きこうしたご指摘や要望に最大限の努力を払っていたいと考えております。

当協会の国際的な活動に目を移しますと、2007 年に国際ジェネリック医薬品連盟

(International Generic Pharmaceutical Alliance = IGPA) に加盟し、ジェネリック医薬品の国際的な普及に協力してきましたが、今年の 12 月には京都において IGPA の年次総会を開催する予定です。この総会には世界のジェネリック企業のトップが参加し、世界各地のジェネリック医薬品市場の分析、ジェネリック医薬品業界の将来展望、特許や TPP 協定等のジェネリック医薬品を取り巻く諸問題等に関して、活発な議論と情報交換が行われる予定です。

こうした規模の大きい国際大会をわが国で開催することにより、国内におけるジェネリック医薬品に対する関心と理解が深まるものと考えていますので、関係各位の多数のご参加を賜るようお願いします。

2012 年度は、政府目標の数量シェア 30%に向けての最終の年度であり、また IGPA 年次総会の初めての日本開催を迎える年度でもあります。こうした大切な時期に会長職を務めさせていただきますが、皆様方のご支援ご協力のもと、また関係団体とも連携しつつ、ジェネリック医薬品業界の発展に誠心誠意尽くしてまいり所存でありますので、宜しくご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。

最後に、会員各社の益々のご発展を祈念し、年頭のご挨拶といたします。